



©信州千曲観光局

▲一目10万本といわれる「あんずの里」には美しい花がすみ広がる。毎年、3月終わりから4月中旬にかけて「あんずまつり」が開催。

特集

「豊かな実りに願いを込めて」

延宝元（1673）年に宇和島藩2代藩主宗利の長女豊姫が松代藩主に嫁いだ際、持参したあんずの種（または苗）がきっかけで、日本一の「あんずの里」となったといわれていることから、昭和48（1973）年に長野県更埴市と姉妹都市になりました。平成15（2003）年に更埴市が合併し千曲市になり、平成17（2005）年に本市が合併したことから改めて盟約を締結し、本年11月3日で姉妹都市提携から50年となりました。

平成30年7月豪雨、その翌年の千曲市での台風19号による災害が発生した際にはお互いに支援し合い、その結びつきはますます強いものとなりました。

また、本年度は宇和島お城まつりで初めて千曲市ブースが来店されたほか、きさいや広場では千曲市フェアが開かれ、盛況を博しました。11月23日からは長野県上田市で姉妹都市50周年記念フェアが開催される予定です。

豊姫が嫁いで350年、あんずの種から生まれた縁が実を結び、さまざまな交流や助け合いが続いています。これからも続く友好に願いを込めて、千曲市とのつながりを特集します。

これまでの2市のあゆみ



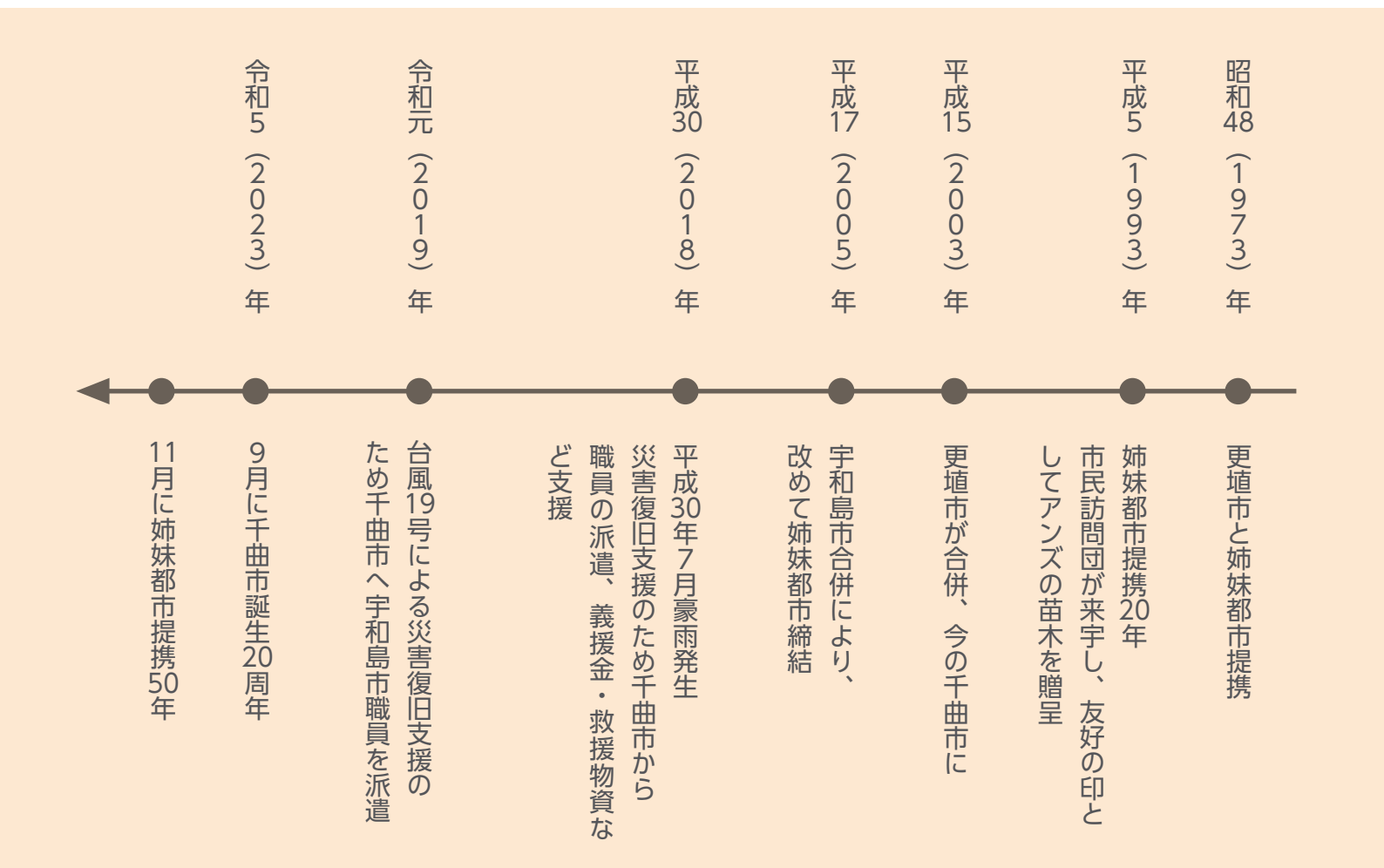
▲きさいや広場での千曲市フェア



▲伊達な宇和島お城まつりでのブース



▲第50回あんずまつり 豊姫と牛鬼



▲千曲市の小学校給食に宇和島産マダイが使われる



▲千曲市へ市職員を災害派遣



▲平成30年7月豪雨被害の際に届けられた千曲市からの応援メッセージ

文化・歴史



右：北国西街道（善光寺街道）の宿場町である重要伝統的建造物群保存地区「稲荷山」。白壁の町家や土蔵が立ち並ぶ。

左：全長約100mの前方後円墳である国指定史跡「森將軍塚古墳」。毎年11月3日に「森將軍塚まつり」を開催。本年度は、宇和島市特産品販売ブースも出店。



こんなところ

千曲市は、長野県北信地域の南東部に位置し、千曲川中流部の平坦地と山々に囲まれています。人口57,979人(9月1日現在)、面積は約120km²です。高速交通網の要衝として、最先端のハイテク産業、精密加工業、食品産業が発達しています。

イベント



右：毎年8月7日に千曲川河畔で行われる信州屈指の花火大会「千曲川納涼煙火大会」。

左：信州有数の温泉郷「戸倉上山田温泉」の夏祭り。勇壮な「勇獅子」や「いなせなみこし」が温泉街を練り歩く。



特産品



右：アズは果実をジャムなどの加工品とする以外に、その枝や幹を主な原料とした草木染め（あんず染め）にも利用。

左：ワイン用のブドウ栽培に適した気候と土壤に恵まれた千曲川流域のエリアを「千曲川ワインバレー」と称し、原料の栽培からワイナリーまでのワイン振興が加速している。



千曲市って

名所



右：国の重要文化的景観で日本遺産に登録されている「姨捨の棚田」。JR姨捨駅から近く、電車を降りると絶景が広がる。旧国鉄の日本三大車窓の一つ。

左：姨捨は多くの和歌や俳句にも詠まれる観月の名所。棚田に移りゆく月を「田毎の月」と呼ぶ。